

恋愛指南ーアルス・アマトリア (岩波文庫)文庫 – 2008/8/19

オウィディウス(著), Ovidius(原著), 沓掛 良彦(翻訳) 648 円

大学 3~4 年次 (1977, 8 年) に「ラテン語初級」「ラテン語上級」を受講しました。4 年の 10 月頃には仏文科の〇〇くんと私だけの 2 名になり、11 月には英文科の私ひとりだけとなりました。どちらかが欠席すると休講となるわけです。幸い私が原因で休講となることはありませんでした。恩師の鷺田哲夫先生の私への警句はきまって 'Festina lente'。2 年間温かく指導して下さいました。テキストとして使用したのはロエブ版の Ovidius の 'Ars amatoria' でした。「黄金のローマ時代の社会や風俗を鏡のごとく映し出す奇書」と内容紹介にありますが当時は予習に 4 時間を費やしても 1 ページ進むかどうかでありました。

Festina lente. ラテン語の格言 「フェスティナー・レンター」と読みます。

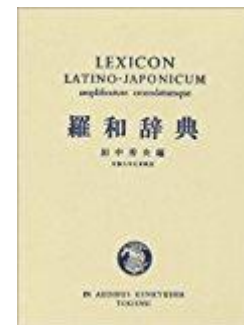
第一変化動詞 festino は「急ぐ」という意味です。festina はその命令法 (能動相) で、「急ぎなさい」となります。lente は「ゆっくりと」を意味する副詞です。

全体で「ゆっくり急げ。」という意味になります。

ローマの初代皇帝アウグストゥスの座右の銘であったとスエートーニウスは伝えています。

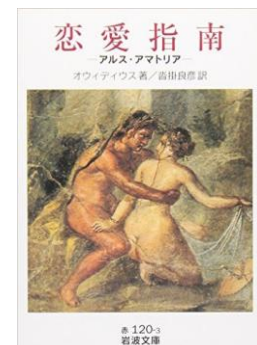
<補足>

この言葉は、羅和辞典 (研究社) をお持ちの方 (著者田中秀央先生の座右の銘) を初め、ご存じの方も少なくないと思います。Festina lente. (フェスティナー・レンター) の言葉をかみしめるときとは? と自問しますと、私の場合、急ぎすぎているときか、ゆっくりしすぎているときか、どちらかです。ゆっくりしているときには「急げ」(Festina) を意識し、急いでいるときには「ゆっくりと」(lente) の言葉を意識します。一粒で二度美味しいラテン語として、この格言をご紹介します。関連図書: [羅和辞典](#) 田中 秀央



恋愛指南ーアルス・アマトリア (岩波文庫)文庫 – 2008/8/19 内容 (「BOOK」データベースより)

航海術や馬術のごとく恋愛にも技術がある。愛の名著か背徳の書か、詩人に名声と流刑をもたらした書は男女に濃やかな知恵を授ける。遊びの恋、戯れの愛、洒脱と雅とを離れず、知的にことをはこぶには...“黄金のローマ”時代の社会や風俗を鏡のごとく映し出す奇書。



5つ星のうち 4.0 2000年前にこれが生まれた？

投稿者 KeY2012年 12月 13日

まあ一人間てのは、進化しない生き物だと、今更驚かされる。2000年、何一つ変わっていないじゃないか。こんなお気楽で、能天気な書物が、2000年前に記されていたとは……。事の是非より、その内容の、底抜けさに、圧倒されてしまう。恐ろしく、爛熟した文化だったんだと、再認識。今でこそ、下劣だ、どうのと言うものでも無いが、良くも、生き残って来たものだと、感心。とは言え、心の機微、感じること、思うことを、これほど、赤裸々に、著したのも無いのかもしれない。将に、恥知らずと言えるが、凄まじいばかりの、観察力とも謂えそうに思う。また、知識の豊富さにも、圧倒される。ギリシア神話他、山のように引き合いに出されるので、訳注にしおりを挟んで、そちらの方が、本編より、長く読んでいたかもしれない。

面白いというには、抵抗があるが、こういう書物が、こういう趣旨で、2000年前に記されたということ自体が、面白い。

5つ星のうち 5.0 この古典一冊で十分

投稿者 もっちゃん 2010年 3月 25日

ちまたの凡百のマニュアルや特集記事が、なぜ役に立たないか？とどのつまり、「モテ方」指南だからだ。相手にどう思われたいか？そんなこと関係がない。自分が「あの人」をどう思うか、だ。本書は、この一点でさし貫かれている。

とくに優れているポイントは、第1, 2巻で「男はどう女をものし」、「保持するか」を説き、3巻で「女はいかに男をつなぎとめておくか」に絞っている点。

つまり、告るのは、あくまで男の側だと論じ切っている点だ。このことを、おぼえておけ！

「おずおずとした態度で約束してはならない。約束事は女の心を惹くものだから。」(1巻)

「彼女がやれというとおりの役を、ともかくもやるのだ。贈り物に罪ありとしている輩はくたばるがいい。」(2巻)

「ところで、非の打ち所の無い美貌などは滅多にないものである。欠点は隠すことだ。できるだけそなたのからだの欠点は隠しておくがいい。」(3巻)

もうちょっとだけ待ってて、プリンセス！

5つ星のうち4.0"Amores" (『恋の歌』) もぜひ文庫化を

投稿者 [yojiseki](#)

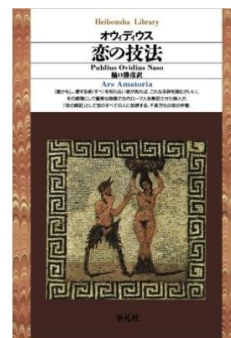
2009年1月20日

平凡社ライブラリー版が入手し辛くなっている所以この新訳はうれしい。できれば同じオウィディウスの"Amores" (『恋の歌』) もぜひ文庫化してほしい。

こちらはスピノザが『エチカ』の第三部定理31で引用しており、『恋愛指南』以上に当時の一般教養となっていたことがうかがわれるが、

以下の邦訳はやはり入手困難になっているからだ

(ローマ恋愛詩人集 (1985年) (アウロラ叢書))。



5つ星のうち5.0 今も昔も好きものは……

投稿者 [ヒデボン VINE](#) メンバー

2008年12月21日

予備知識がなければ本書の作者オウィディウスが、紀元前1世紀に生きた詩人だとは、わからないだろう。それだけに当時の男女間の恋愛沙汰、夫や妻の浮気、閨房での睦言・椿事等々は、21世紀に生きる我々とまったくといっていいほど変わっていないことに、むしろ驚かされる。本文庫「第三巻」の最終ページ(142ページ)に以下のようにある。他の評者と異なる箇所を選んでおくので、もう一つのお楽しみを……。

「……女は骨の髄から溶けてしまうほどウェヌスのよろこびを感じるがいい。あのことは両者が共に等しくよろこびを味わうべきである。耳をくすぐる甘い声、よろこびが洩らすさきやきもやめてはならぬし、愛の楽しみの最中に淫らなことばを吐かないのもよくない。生まれつき不感症の女も、偽りのことばを吐いて甘いよろこびを装うがいい。[男も女も等しく楽しむはずのあの場所の感覚が鈍く、それと感ぜない女は不幸である。]……」とある。

「銀座ママのセックス指南」ではない、2000年前の「恋愛指南」である。

5つ星のうち 5.0 古代ローマのハウツー本は楽しい

投稿者お気に召すままベスト 500 レビューアー

2008年8月22日

原著"Ars Amatoria"は、"The Art of Love"、すなわち『愛の技法』という意味。どうやって女の子を口説くか、口説かれた女はどう対応すべきか、男の品定め、女の品定め、上手な浮気の仕方など、テクニックを伝授するハウツー本。古代・中世のヨーロッパ人たちは、こっそり回し読みして楽しんだのだろう。アベラールとの悲恋で知られる才媛エロイーズも本書を引用・紹介しているから(「第六書簡」)、中世の修道女たちも読んでいたわけだ。古今東西、"実用書"には必ず需要があるが、今回ついに岩波文庫に新訳が登場。本書はさすが"官能詩人"の書だけあって、記述もストレートだ。旧訳(樋口勝彦訳、平凡社ライブラリー)と比べてみよう。「私は[女が]自分の喜びをついもらす声を聞くと嬉しくなる。私に待ってくれとか、こらえてくれとか、いつてくれるのは嬉しい。女の愛の狂的な、もう参ったという目つきを見たいものだ。彼女をぐったりさせたい。もうさわってくれるなと拒ましめたい」(旧訳 p95)。「女が自分が味わっている喜びの声を洩らし、私にちょっと待ってとか、もうちょっと我慢して、などという声を聞くのが、私にはうれしいのである。愛する女が狂態をさらして、もう駄目というような眼をしているのが見たいものだ。ぐったりとさせて、当分のあいだもうさわらないで、などと言わせてみたいものだ」(新訳 p92)。どうです、おおらかな古典を新訳で読むのもいいものでしょう。